

## 第1回 宮崎県教員育成協議会 議事録概要

### 1 日時

令和4年10月14日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで

### 2 会場

県庁7号館 735号室

### 3 出席者

宮崎県教員育成協議会委員 13名

### 4 内容

#### (1) あいさつ （副教育長）

#### (2) 説明

○ 教員免許更新制の発展的解消と新たな研修制度について（教職員課）

#### <質疑応答>

委員：研修履歴は遡って記録するのか。今後の研修のみを記録していくのか。

事務局：令和5年度からの研修を記録していくと考えている。

委員：幼稚園教諭はどうなるのか。

事務局：こども政策課と協議中である。

委員：研修は、新しく作るのか、既存の研修を活用するのか。

事務局：これまでの研修と新しい研修を組み合わせしていく予定である。

委員：教員免許更新講習のように、確認テストのようなものはあるのか。

事務局：教員の負担にならないように、国の方針を見ながら今後検討していく。

#### (3) 協議

協議題「宮崎県教員育成指標及び教員研修計画の改訂について」

#### <育成指標について（教職員課より説明）>

委員：「教職に必要な素養」については、国の指針では土台となっているが、本県の育成指標では、1つのカテゴリーとなっているのが気になる。

事務局：土台となる資質・能力であるが、現行と同様にステージごとに身に付けてもらいたい項目の1つとして整理した。

委員：現行の育成指標は、教職員評価と連動しているが、指標が変われば評価項目も変わるのか。

事務局：変更する予定である。

委員：教職員評価のミーティングが既に年3回ある。それに加えて研修履歴に関する指導が入って来ると管理職の負担が増える。

事務局：職員数の多い学校には、副校長・教頭等と分担して目標設定ミーティン

- グをお願いしている。管理職の負担感も考慮して検討していきたい。
- 委員：研修に関する指導は新たに増やすというよりも、これまでにあるもので代替えするなど業務の増えないよう配慮してほしい。
- 事務局：国も教員の負担にならないようにとの方針がある。負担感が出ないように考えていく。
- 委員：令和の教育についての概論を理解してもらう必要がある。それをやった上での教科指導・生徒指導・ICT活用ではないか。
- 事務局：社会の変化、現在の教育の総論・概論をしっかり示した研修計画にした
- 議 長：養成期に身に付けて欲しい素養等をプレステージとして示しているが、これに関して大学の方からご意見はないか。
- 委員：採用試験合格後、どのレベルまで資質能力を高める必要があるか自己点検できる指標となっているのでありがたい。妥当な設定ではないか。現場に即していて使いやすい。
- 委員：以前は九州地区で育成指標がある程度調整されたと聞いたが、今回はどうか。
- 事務局：現在はどの県も手探り状態で作成している。九州内でのネットワーク会議があるので、その中で情報交換したい。
- 委員：概念的なものをしっかりと出して欲しい。納得感があれば意欲的な学びにつながる。他県のICT導入において学力が低下した例もある。
- 委員：ICTの良い部分だけでなく負の部分にも目を向けていくことが必要。
- 委員：協働的な学びをどのように研修に盛り込んでいくのか。個別最適な学びという項目はあるが、学級経営という項目が見当たらない。
- 事務局：必要性を感じる。
- 委員：学校の校内研修で協働的な学びについて取り組んでほしい。
- 委員：いじめに関して盛り込んだ部分はあるか。
- 事務局：生徒指導の「児童生徒指導力」のところがそれに該当する。
- 委員：いじめに関しては傍観者を阻止する側へどう変えるか、協働的な学びの視点でここも検討してもらいたい。
- 事務局：主体的・対話的で深い学びを教員研修に組み込んでいくことが今後の検討課題である。
- 委員：管理職研修は講座式が多い。いろいろな事例をどう対応するかという点のニーズが高い。危機管理、コンプライアンスなど多岐にわたる。事例をベースにした研修がほしい。
- 委員：研修内容の見直しにあたっては、管理職研修も大きな部分である。新任管理職、候補者（リーダー研修）がそれにあたる。実務的なところのニーズが高い。実際の対応、処理について不安を抱えている管理職は多い。
- 委員：法的な部分で、保護者の方が詳しく、学校責任を追求される。管理職は法的な面の知識や技能が必要。そのような内容も検討してほしい。

<教員研修計画の改訂について（教育研修センターより説明）>

- 委員：育成指標のステージと研修体系の繋がりが見えにくい。特別な支援を要する子どもへの対応については悉皆研修に入れた方がよい。
- 委員：校内研修はいろいろな形が考えられる。いろいろな事例を紹介してもらえるとよい。校内研修の充実があって協働的な学びや広がりが出てくる。自分のキャリアの中でどう生きていくのか、スタイルを描く部分が研修の中でできないか。管理職、行政職の希望者が少なくなっている。
- 委員：オンデマンド研修は効率的でよいが、現場では通常業務に加えて研修を受けている。モチベーションが高まるような研修がたくさんできると良い。
- 委員：初期研修を大学で実施することがあり、その時に大学生も参加すると、無理なく、効率的になるのではないか。
- 委員：大学側としては学生に積極的に学校現場へ入ってもらいたいと思っている。スクールトライアルなど広く受け入れてもらっている。現場からも良い声が聞こえてありがたい。
- 事務局：オンデマンド研修については、しっかりしたコンテンツに加えて、短時間のコンテンツも準備したい。学生にも利用できるよう検討していきたい。
- 委員：スクールトライアル等は学生主体でされても良いのではないか。学校との連絡調整も勉強になっている。
- 事務局：今回は、来年1月に実施。本年度中に育成指標は確定させ、各学校へ周知する。